



えんだよい

令和7年度
6月号
常念寺保育園

園庭や広場には花や緑の自然が多く、また常念寺境内も自然豊かな環境で、子どもたちは思い思いの遊びやお散歩などを楽しんでいる様子です。しかし気候変動が大きい昨今、これから迎える梅雨と夏を前に高温の日が増えてまいりました。水分補給や涼しく過ごすこと、着替えなど清潔にすること、また、『静と動の遊び、食べる、休む・寝ること、ゆったり寛ぐこと』などの生活を大切に日々過ごしてまいります。同時に、子どもたちと大人たちも一緒に、『感じる、考えること、やってみること（安心と挑戦の循環）』大事に、集団生活と一人一人の主体性を大切に、対話的な保育をしてまいります。



先日、園庭に体力と知力を一緒に伸ばせるボルダリングを設置しました。主に3-5歳児の遊具ですが一部2歳児さんも遊べます。また、るんびに一園の南庭には新しいフェンスを設置しました。これからガーデンテラス風のお庭工事を始めていき、地域の方々（子育て・産前産後家庭など）が屋内外ともに楽しくゆったりくつろげるスペースを整えていきます。

今年度も昨年度に続き一日保育者体験を実施します。お忙しい中ではございますが是非ご参加いただければと思います。子どもにとって家庭生活と園生活は繋がっており、楽しい時もそうでない時も、良いことも良くないことも全てではありませんが、ご家庭と共感・共有し合えると嬉しいなあと考えております。子どもの成長と一緒に感じ、子育ての楽しさを再確認できたり、子育てのヒントになることがあったりすると良いなあと願います。＝文責：園長＝

子育てメッセージより・・・『子どもという 新しい存在との 出会いに感謝』

産声を覚えていますか？ はじめて対面したときのことを覚えていますか？ 子どもたちの出生からの日々…

子どもの笑顔、寝顔は、心とませてくれる、まるで魔法の薬。どんなに忙しくても、どんなに苦しくても、その魔法の薬で何度癒されたことでしょう。

あなたに出会えて、ほんとうによかった。ほんとうにありがとう。

常念寺保育園では日々の保育をはじめ地域の子育て支援や産前産後の家族支援も行っております。
ご友人・知人の方が気軽にご利用できる
「るんびに一園」を是非ご紹介下さい。
るんびに一通信『6月号』はこちら↓
イベントのご案内しております
是非ご覧ください！



今月の 行事予定

2 (月)	・朝のお集まり
7 (土)	☆はなまつり 午前 9:00～ 第1部：年長児による稚児行列（保育園から常念寺境内） 第2部：常念寺本堂にて儀式 第3部：年長児のみ親子行事（つくってあそぼう） ☆年長児以外の親子も第1部と第2部は参観できます。ぜひお越しください！
10 (火)	・時の記念日（大時計見学）
12 (木)	・内科健診 13:00～
25 (水)	・かもしかクラブ（10:00～発会式） ・非常訓練：引き渡し訓練（15:30～地震想定 全園児）
26 (木)	・わくわくあそび 湯田川スタンプラリー（年長児参加）
27 (金)	・保護者会（クラス懇談）※個人面談は希望者のみ すくすくゾーン 18:00～19:00 / なかよしゾーン 19:00～20:00
体操教室	13 (金) まつくみ・ばらくみ 27 (金) まつくみ・ばらくみ・さくらくみ
身体測定	3日：まつ 4日：ばら 9日：さくら 11日：うめ 12日：もも・すみれくみ 13日：いちご・たんぼくみ

●今月の職員研修●

【毎月】：やまごや作業療法士・公益大公認心理士・ごつと助産院長（助産師・保健師）来園 ⇒ 子どもの困りごと、保育援助、産前産後支援・子育て支援等

★6/20 (金) 井桁容子先生来園：視察と振り返り（保育・食・休む）

★『保育が変わると計画が変わる・・・子どもの姿ベースの指導計画～子どもの姿を語り合う～（保育ナビ6月号）』：副園長より

★保育ナビ6月号：井桁容子先生『保育者のセンス・オブ・ワンダー（0.1.2歳児）“子どもの心を豊かに育むために”～こだわり屋さんの感性～』：グループワーク

★汐見裕幸監修：映像で見る乳児の保育 遊びと生活（0.1.2歳）：グループワーク

★計画通りにいかないジグザグ保育がつくる子ども主体の学び（学研）（3.4.5歳児）：グループワーク

★保育ナビ6月号：遊びが10倍豊かになる砂場づくり（砂場とその周辺環境）：書面研修

★保育ナビ6月号：“こどもまんなか”の食育：書面研修

★園児たちの素敵エピソード（キラキラ、いいこと思いついた！）：各職員会議にて全職員より：語り合い



6月より『はだし保育』を展開し、足の裏の筋肉を使い強い身体づくりをして参ります。室内で内履きを使用せずに過ごす他、園庭での遊びも裸足になることで砂や泥の感触を味わい、よりダイナミックに遊びこめるようになります。中には抵抗がある子もいるかもしれませんが、無理なく少しずつ慣れていける様子を見て進めていきたいと思います。
※活動に合わせて内履きを使用することもありますので今まで通り下足箱に入れておいてください。